

- ◆実施校名 守口市立南小学校 寝屋川市立点野小学校 寝屋川市立石津小学校
大東市立四条小学校 寝屋川市立第五小学校
- ◆主題名 互いに信頼し、学び合って **道徳の内容 B 友情・信頼**
- ◆ねらい 何気ないメールがきっかけで傷つけたり傷ついたりした二人の思いを考えるを通して、互いに信頼し合い、友情を高めていこうとする道徳的心情を育てる。

◎ **中心的な発問** 友だちとの付き合い方について大切にしたいことを考えましょう。

◆ **本時の展開**

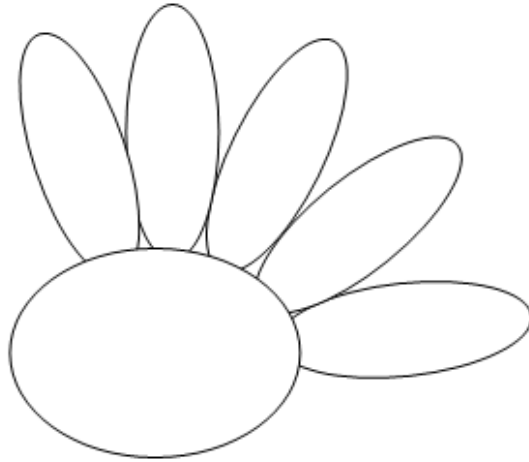
	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価						
	今日の資料について知る。	タイトルからどんなことを想像しますか。	資料への方向付けを行い、学習への意欲へつなげる。						
展 開	◎あゆみの立場で考えるグループ(A)と、みかの立場で考えるグループ(B)に分かれて資料を読む。	<table border="1"> <tr> <th>Aチーム</th> <th>Bチーム</th> </tr> <tr> <td> 9月1日の夜 あゆみはどんなことを考えたろう ・友達ができそう ・携帯が必要なのかな ・楽しくなりそう </td> <td> 9月1日の夜 みかはどんなことを考えたろう ・携帯が無いなんて ・がっかり ・友達がいらないのかな </td> </tr> <tr> <td> 帰りの会の後 あゆみはどんなことを考えたろう ・ひどい ・いじめられるのかな ・自分が悪いのかな </td> <td> 帰りの会の後 みかはどんなことを考えたろう ・こんなことになるとは ・ごめんなさい ・誰が変えたのかな </td> </tr> </table>	Aチーム	Bチーム	9月1日の夜 あゆみはどんなことを考えたろう ・友達ができそう ・携帯が必要なのかな ・楽しくなりそう	9月1日の夜 みかはどんなことを考えたろう ・携帯が無いなんて ・がっかり ・友達がいらないのかな	帰りの会の後 あゆみはどんなことを考えたろう ・ひどい ・いじめられるのかな ・自分が悪いのかな	帰りの会の後 みかはどんなことを考えたろう ・こんなことになるとは ・ごめんなさい ・誰が変えたのかな	○「二人」が、どのような気持ちであったかを考える ○「二人」の気持ちに変化が表れていることをおさえる
	Aチーム	Bチーム							
	9月1日の夜 あゆみはどんなことを考えたろう ・友達ができそう ・携帯が必要なのかな ・楽しくなりそう	9月1日の夜 みかはどんなことを考えたろう ・携帯が無いなんて ・がっかり ・友達がいらないのかな							
	帰りの会の後 あゆみはどんなことを考えたろう ・ひどい ・いじめられるのかな ・自分が悪いのかな	帰りの会の後 みかはどんなことを考えたろう ・こんなことになるとは ・ごめんなさい ・誰が変えたのかな							
◎9月1日の夜の「二人」の気持ちを考える。 Aチームはあゆみ Bチームはみか									
◎9月2日の帰りの会の後の「二人」の気持ちを考える。 Aチームはあゆみ Bチームはみか									
◎みかとあゆみになりきって電話のやりとりをする。	みかとあゆみは電話でどんなことを話したろう ・本当は仲良くしたい ・携帯は怖い ・ごめんなさい 全文を読む。	○二人の思いのすれ違いとその原因は何かを考えさせる <評価>あゆみやみかの思いを考えることで、信頼関係の大切さに気付くことができたか。 <評価方法> 発言内容、ワークシート・振り返りの記述 <評価をいかした支援> 多様な考えを認め、様々な考えを交流することで、友だちとの付き合い方に必要なことや、それに対する思いを引き出す。							
◎友だちとの付き合い方で大切にしたいことをワークシートに記入し、全体で交流する。	友だちとの付き合い方について大切にしたいことを考えましょう ・相手の気持ちを考える・直接話をする ・噂を信じない・事実ではないことを伝えない ・自分から相手に素直に謝る ・推測で話をしない								
終末	◎本時の学習を振り返り道徳的価値を深める。	今日の学習で考えたことや感じたことを書きましょう	○感想を発表し合い、道徳的価値への気づきや自覚をさらに深められるようにする <評価>振り返りの記入内容						

◆ **評価** ○互いに信頼し合い、友情を高めていこうとする心情を育てることができたか。(ワークシート・発言・振り返り)

◆参考資料

花びらワークシート

考えたこと



「知らない間の出来事」

名前

板書計画

「知らない間の出来事」

あゆみ **みか**

九月一日の夜

- ・友達ができそう
- ・携帯が必要なのかな
- ・楽しくなりそう
- ・友達が無くなって
- ・がっかり
- ・友達がいらないの

帰りの会の後

- ・ひどい
- ・こんなことになるとは思っていなかった
- ・いじめられるのかな
- ・自分が悪いのかな
- ・ごめんなさい
- ・誰が変えたのかな

みかとあゆみは電話で

どんな話をしたろう

- ・本当は仲良くしたい
- ・携帯は怖い
- ・ごめんなさい

友だちとの付き合い方について

大切にしたいこと

- ・相手の気持ちを考える
- ・直接話をする
- ・噂を信じない
- ・事実ではないことを伝えない
- ・自分から相手に素直に謝る
- ・推測で話をしない

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

成果

- ・ワークシートを用いて、児童の考えの変化や深化を可視化することができた。
- 花びらの形を用いたワークシートを使用することで、ねらいとする道徳的価値に関わる中心発問（友だちとの関わりで大切にすること）について、自分の考えをわかりやすく書くことができた。考えが広がったり、深まったりすることが花びらの枚数により、可視化されることで、児童の学習意欲向上にもつながった。また、自分の考えと友だちの考えを色分けして書くことで、自分の考えの変化や深まりも見ることができた。記録として残ることで、全員の考えを知る手立てとなった。
- ・互いの立場にたって考えることによる、学習意欲の向上
- 今回は2つの立場の考えをより自然な形で考えさせるため、資料をそれぞれの登場人物の立場に分けて配付した。相手の気持ちや互いのすれ違いについてなど、相手の立場に立った考えが見られた。

課題

- ・ワークシートを用いた評価について
- 児童の書く力によって、内容に差が見られた。考えをうまく文章にできない児童をどのように評価するか。教師の発問によって児童がワークシートに書く内容が変わるため、発問を吟味する必要がある。ワークシートに書かせる際、何について書くのか児童に明確に示す必要がある。
- ・資料を2つに分けたことで、互いの内容理解を図るため、国語の読み取りのような形になり、時間が不足した。

○道徳の評価についての提言

●毎回の授業で同一のワークシートを使用。

- ・中心発問で考えを書かせる。→各道徳的価値についての考えを記録する。
- ・ワークシートを記録としてためていく。→児童の考えの変化を見取る。
- ・同一のワークシートを用いることで、考えの変化を比較することができる。

●ワークシートを使用することで、全員の考えを把握する。

- ・自分の意見は鉛筆で書き、友だちの意見で共感できる内容については、赤鉛筆で記入。
- ・花びらの枚数や赤鉛筆の内容をもとに、考えの広がりや深まりを見取る。
- ・中心部分には、最終的な自分の考えを書く。→考えの変化、過程を見取る。

●多様な考えを認める授業の工夫

- ・道徳的価値の押しつけにならない授業
- ・理想とする反応のみを評価しない→児童生徒の思いを大切に認めていく。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

・授業スタイルがいつもと違ったので、子どもたちの授業に対する関心が高まった。
→児童の発言が多かった。普段発言しない児童も積極的に参加することができた。

◎中心発問でワークシートを使用。

- ・発問に対する発言
- ・花びらワークシートによる記入内容

（支援）

- ・友達の発表を聞きながら、共感できる内容については赤鉛筆で花びらに記入。

（評価）

- ・友達の発表を聞いて、新しい価値に触れることができたか。
- ・自分の考え→友達の考え→結論（友達の考えを聞いて、自分の考えにとり入れられた。）

○成果と課題

（成果）・授業の組み立て（展開例）がよかった。児童の多様な考えを導き出すためには、やはり展開は重要であると実感した。

（課題）・一枚のワークシートで評価をするのは難しい。継続的に同じワークシートで学習に取り組むことが必要。

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際

授業中の発言が積極的な子どもは評価できるが、手を挙げていなくても心が育っている子どももいるため、基本的にはワークシートへの記入を中心に評価した。

花びらの記入においては、自分の意見だけでなく友達への考えも取り入れてたくさん記入する姿が見られた。

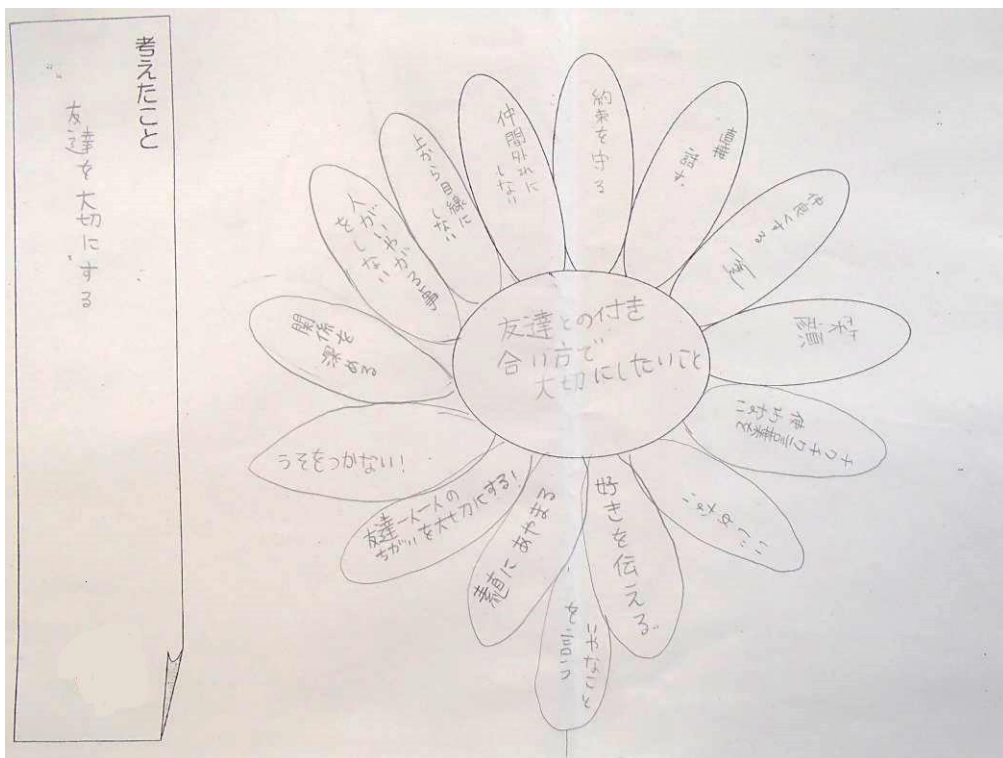
「考えたこと」では、ほとんどの子どもが同じような答えになってしまうことが多い。今回であれば「友だちと仲良くする」が多数であった。その中でも道徳的価値に迫る言葉を書いている子どもを評価していきたい。

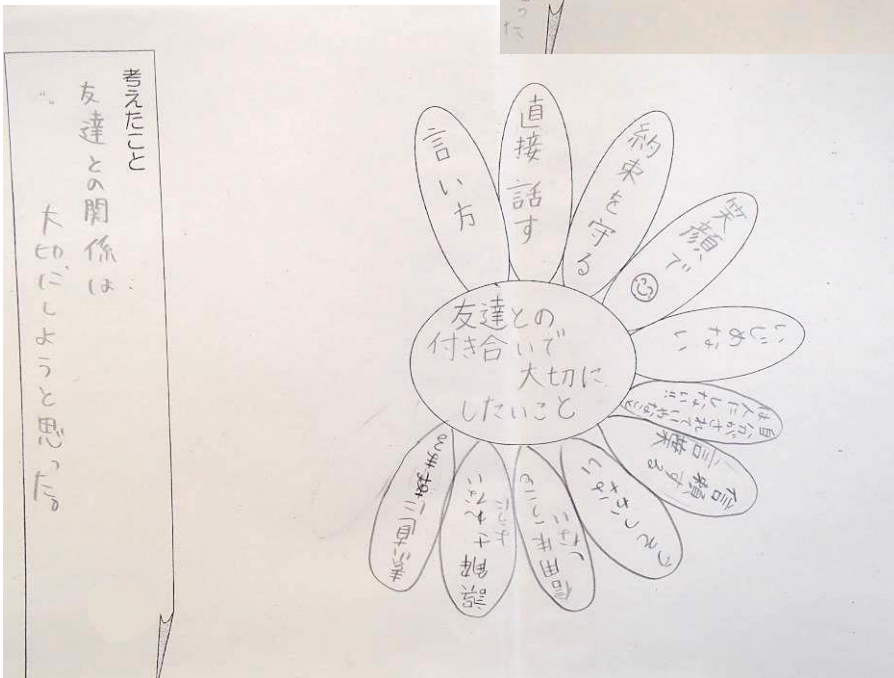
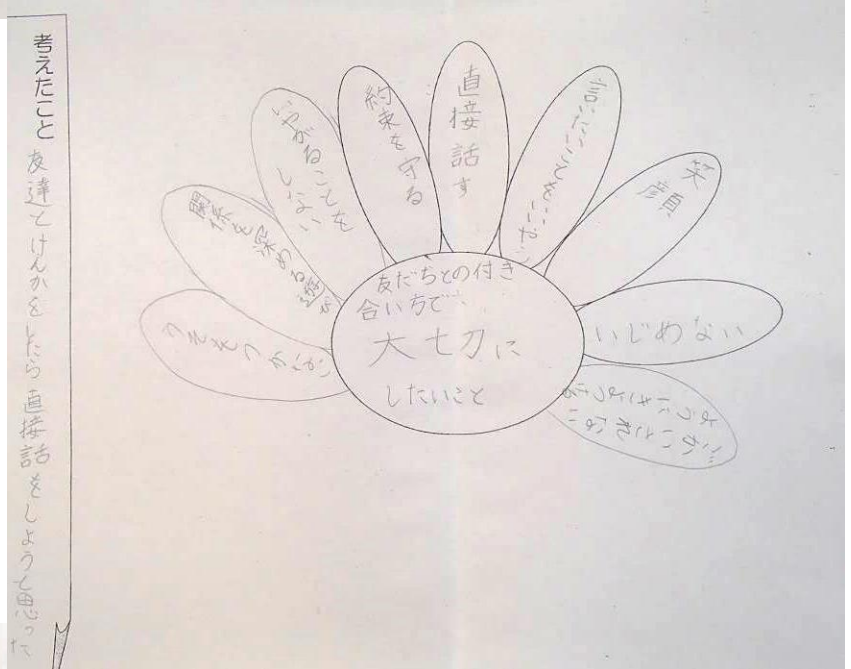
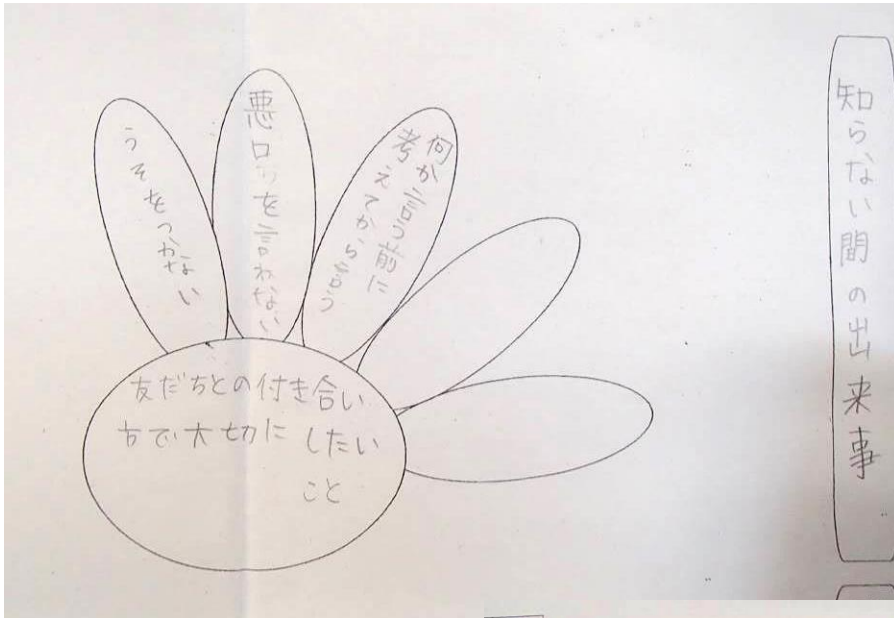
○成果と課題

文章だけで評価することは難しいが、花びらワークシートであれば、自分の意見だけでなく友達への意見を加えたり、友達との交流の中で考えたりしたことを花びらの中に書いていくことが出来るため、評価のよりどころとすることが出来た。

課題としては、文章を書くことが苦手な子どもに対してどのように評価するのかを考える必要がある。また、高学年になると自分の素直な思いではなく、教師が書いて欲しいであろう答えを考えて書く子どももいるため、どのように評価するのかも考えなければならない。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）





◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・花びらの形をしたワークシートを用いた。

（花びらの形の中に、自分が考える友だちとの関わりで大切にすることを書かせた。）

→価値に関する内容が多く書かれていた。また、花びらということもあり、枚数を出来るだけ多く書きたいといった児童の心理も働き、多くのことを書く姿が見られた。このことから、ワークシートの形が児童の書く意欲を向上させ、結果としてより道德の価値について考えることができたと考ええる。

- ・授業での発言や態度

→今回は別々の資料を配布するということがだったので、相手の気持ちや相手のことについて知りたいといった発言やすれ違っていることを整理したいなど、相手の立場にたって考える発言などが児童から多く出てきた。児童の発言は、板書しネームプレートを用いて、整理を行った。ふりかえりを書く以外で児童の様子を見取っていくことは、なかなか困難ではあるが、ねらいに迫る発言や反応を通じて、その後の評価に活かしていきたい。

- ・授業を通しての価値理解の深化が図れたのかが不透明であった。

→児童の中には、この授業を通してというよりは、今までの生活経験のなかで獲得しているような発言も多かった。花びらの中には、価値についての内容が多く書かれていたことから、概ねねらいは達成できたように感じる。しかし、その価値に対して、深める発問やきりかえしが十分に出来なかったことは、自分自身の授業の課題として捉えていかなければならない。

○成果と課題

○資料を分けたことで児童が興味を持ち話し合いを行うことができた。（授業の成果）

○ワークシートを用いることで、児童の理解が可視化されてよかった。

△道德の授業を通して、どれだけ価値に迫れたのかが曖昧である。

△授業の前半部分は少し読み取りのような形になってしまった。

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・授業のはじめに、子どもたちにメールのトラブルの経験があるかどうか尋ねると、あるクラスでは2名の子があると答えた。
- ・資料（本文）を、冊子ではなくプリントで渡した。（「あゆみグループ用」「みかグループ用」）それぞれ表に9月1日の話、裏に9月2日の話を載せた。
- ・2つのグループに分かれ、あゆみとみかのそれぞれの立場で考える際に、9月1日の話までを読んで一度ワークシートに記入、次に9月2日の話を読んでワークシートに記入というように、2段階に分けて考えた。
- ・片方の立場で考えた後に相手側の本文を読み、客観的に双方の思いをとらえ、トラブルの原因を考えた。
- ・ここまでの流れの中で、相手側の本文を読む前は一方的な考え方だったのが、全容を知ると、子どもたちは「あ～、そういうことか！」「二人とも仲良くしたいのになあ。」と言っていた。

○成果と課題

（成果）

- ・登場人物それぞれの立場や、9月1日の夜の時点と9月2日の帰りの会の時点とに分けて考えたことで、子どもたちは理解しやすいようであった。

（課題）

- ・「信頼関係の大切さ」は子どもたちの中に生まれていたが、それを言葉で表すのが難しそうだった。
- ・「友情を大切にする」とか「友達を信頼する」といった言葉で止まる子どもも多く、具体的な生活に沿った話まで進めることが難しかった。

所属（ 大東市立四条小学校 ）

◆実施学年（6年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

花びらを用いたワークシートに自由に思いを書かせた。

↓

自分はどう思うか、相手はどう思っているか、両方の立場にたって考えさせた。

自分が「みか」だったら どうしていただろう⇔みかに対して どう思うか

自分が「あゆみ」だったら どうしていただろう⇔あゆみに対して どう思うか

↓

これから自分はどうしたらよいだろう

（本当の友だちになるために）

（評価の観点）

本当の友だちになるためにどうしたらよいか、自分なりの考えがもてただろうか。

○成果と課題

クラスの中にも、自分だけの携帯を持っている子がおり。親との習い事での連絡、携帯ゲーム、LINEのやりとり、Youtubeなどを中心に使用している。メールでのやりとりの文面は、「いつもそんなに長くないよ。」と答えた子が多かった。

ワークシートでは、所持していない子の方が多くの気づきを書いていた。

これからもっと所持していく子が増えると思われるので、情報モラル教育も含め、継続した指導が必要と感じた。